

教育・保育理念

- ・自分も友だちも大切に作る心の育成
- ・学びの芽の育成
- ・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成

園の重点項目

保護者と共に一人一人を大切にしながら、自己肯定感を育み、友だちと一緒に安心して主体的に生活できるようにする。

令和7年度 重点内容

- ・大人に見守られ、仲間に認められて安心安全に過ごせるようにする。
- ・「やってみたい」「もっとしたい」気持ちが満たされ、主体的に遊べるようにする。
- ・しなやかな体づくりをする。
- ・保護者・地域の方に寄り添って信頼関係を築き、ほっとできる場になる。

重点内容	重点内容に向けた具体策	評価項目	自己評価	とも園関係者評価
大人に見守られ、安心して過ごせるようにする。	一人一人丁寧に関わり大人との信頼関係を築き、自尊感情を持てるようにする。	・保育教諭との信頼関係を築き、一人ひとりの自尊感情を育てる ・職員同士が連携して「子どもにとって」の視点で話し合い、教育・保育を進めていく	A	園の集団生活を活かし、友だちや異年齢のともと交流する場面で相手の気持ちを考えたり自分の気持ちを相手に伝えるよい学びの場となっていると感じる。また園は家族から離れて生活するうえで何より大切なことは『居心地の良さ』であり園が『第2の家』になっていると思う。園は子どもが最初に経験する社会であり、横(友だち)と縦(異年齢等)のつながりの中で自分が果たすべき役割を学び、とも一人一人が個性豊かにのびのびと成長してほしい。幼児期の安心感は今後の人生に大きな影響を及ぼすので、園での愛着関係の基盤づくりはうまくいっているように感じ、今後も継続してほしい。
	子どもの思いを受け止め、それを言葉で表現したり、1対1で関わる時間も大切に、安定して過ごせるようにする。	・園児の表情や行動を温かく見守りながら、思いをうけとめる ・保育教諭との温かいふれあいを通して愛着関係を育み、意欲的に生きていく力につなげる	A	
	生活や遊びの中で友だちと関わり合うことの楽しさや一緒に過ごすことの喜びが感じられるようにする。	・理念や方針や指導計画及び子どもの状況などについて、職員同士が共通理解する ・お互いを尊重し合えるよう人権を大切に作る心を育て、共に育ちあうクラスづくりをめざす	A	
	友だちの思いや気持ちに気付けるようにしお互いを認め合える関係をつくっていく。	・大人との愛着関係や安心感のもと、自分らしさを発揮し、認められる体験を通して信頼関係を築く ・様々な経験を通して、協調性や思いやりの気持ちを育てる(異年齢交流をふくむ) ・「友だちといると心地よい、楽しい、遊んだら面白い」と感じる集団遊びに取り組む ・お互いのことを認め合い、友だちの気持ちに気づいたり、励まし合う関係を作る	A	
「やってみたい」「もっとしたい」気持ちを満たすようにする。	主体的に過ごせるよう個々の発達に合わせた関わり、意欲、自己肯定感を育む。	・自分で考え、自信を持って行動できるような大人の関わりを大切にする。 ・乳児は特に情緒の安定や意欲的に生活することを大切にする。	A	家庭では経験できない遊びを知り、やってみたい、もっとしたいという気持ちが育っていると感じ、選べる環境は大切である。今後も主体性を身に付けていけるように子どもを導いてほしい。やってみたいことが見つかることの特長や育ちを観察していくことも教育・保育のヒントになるかもしれない。どうしても時間や空間の制約は出てくるが、そこをどのように折り合いを付けていくのか、職員が常に考えていかなければならない視点である。
	主体的に生活できる環境づくり(生活しやすい環境を整えたり分かりやすい日課を作る。)	・園児の家庭状況を理解し、安心できる環境の中、生活習慣を身につけられるようにする ・職員同士の交流や情報交換を円滑におこない、園児の学びと育ちをつないでいく	A	
	主体的に活動できる保育環境づくり(興味、関心、発達に合わせた教材の準備をし、自分で選んで遊べる環境を作る。遊びこんだり遊びを発展させるための時間や場所の確保について考える。)	・自分で選んで遊べたり、発展できるあそびを計画し、振り返りながら進めていく ・あそびこめる環境を充実させ、心動く遊びを計画・実践し、振り返る ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識して教育・保育を行う	B	
しなやかな体づくりをする。	ホールや園庭を利用し全身を使った活動に取り組む。	・散歩や外遊び、ホールをうまく活用し全身を使った活動を計画し、取り組む ・園内研修や園外研修を通じ専門性や倫理性の向上に努める	A	園独自の音楽体操を職員が考案し子どもが自主的に取り組むことは大変よい。また園庭だけでなくホールを活用し、子どもの体作りを今後も工夫をしていってほしい。園での取り組みが小学校にどのようにつながっていくかという視点でも見ていき、園での活動を活かしていくことができようと思う。
	さくらんぼリズム、アートヨガなどの体幹づくりを中心とした活動を定期的に取り組む。	・1年通して体幹づくりを中心とした活動に定期的に計画・実践し、振り返る ・体幹づくりに重点を置いた活動に継続的に取り組めるよう計画実践し、振り返る	A	
保護者・地域と信頼関係を築く。	笑顔で接し、保護者の思いを出してもらえ関係を築く。	・家庭環境や保護者のニーズを理解し、ともに子育てをしていく視点を持ち、信頼関係を築く	A	保護者が安心して子どもを預けられる場所でありつづけてほしい。地域とは交流することができている。在園児の祖父母を招いた交流があればとても楽しいと思う。保護者との信頼関係を築くには、保育教諭としての専門知識や経験も必要だが、どれだけ子どもを見ているかという点も大切であり、職員が保護者とのかわりを楽しみ、共に子育てしていくことを大切にしてほしい。
	園での接し方、様子を具体的に知らせ、保護者と一緒に子どものことを考える。	・保護者に教育保育内容や子どもの姿を伝え、子どもの成長を共有する	A	
	地域の機関と連携するとともに、地域の子育て支援を行う。	・地域の関係機関と連携し、情報などを共有し、ともたちの育ちにつなげていく ・地域の方に挨拶したり、園にあそびにきてもらったりして交流をする	B	

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
しなやかな体づくり(体幹づくり)	・引き続き、園庭やホールを使用し継続的に運動遊びに取り組み幼児は日頃の取り組みから『みんながたのしい運動会』を実践する。 ・乳児は発達にあわせた動きや運動あそび、散歩を存分に楽しむ。 ・園内研修で職員が体づくりについて学び実践に活かす。
子どもが夢中になって主体的に遊ぶ環境づくりの実践	・子どもの興味・関心に合わせ、子どもが選べる、工夫ができる教材準備や環境を作る。 ・虫や草花に触れ合える環境を目指し園庭の自然環境を整備する。 ・興味を持った遊びや活動の続きが、今日も明日も楽しめる時間と空間づくりの検討と実践。

園長より

日置荘とも園では子どもの主体性について学び、次年度は、子どもが夢中になって遊ぶ中から学びの芽を育てるための保育環境づくりに取り組めます。また『みんながもっといい』という視点を大切に、とも、保護者、職員みんなが笑顔でそれぞれの良さを出し合える日置荘とも園を目指します。今年度も保護者の皆様と地域の皆様に見守っていただきありがとうございます。